

市駅前広場の整備計画が進んでいます

松山市では、「歩いて暮らせるまちづくり」を進めるため、花園町通りと銀天街をつなぎ、一日約3万人の乗降客が行き交う「松山市駅前広場」の整備を進めています。

この整備で、公共交通の利用が便利になるほか、にぎわいの空間を創り出し、中心市街地の活性化を促します。



完成イメージパース（全体）



完成イメージパース（市駅から広場を見た視点）

交通への対策

本整備は、現在の交通の流れを大きく変えるため、市駅周辺の交通への影響が予想されます。その対策として、これまで以下の内容を実施しました。

路線バスのルートや乗場の一部変更、新バス停の設置

本事業の実施に伴い、千舟町通りに交通への負荷が予想されるため、千舟町通りの交通を分散させることを目的に、令和3年4月1日から、伊予鉄バス（株）が運営する路線バスのルートや乗り場を一部変更しました。

また、いよてつ高島屋の東側に、新たにバス乗り場（20番のりば、21番のりば）を設置しました。

千舟町通り東行きの右折車線設置

千舟町通りの渋滞対策として、愛媛銀行末広町支店前交差点の東行き車線に、新たに右折車線を設けました。

それに伴い、令和3年9月に、右折専用信号を設置しました。

千舟町通りの混雑緩和のための車線変更

交通への影響やにぎわい創出の効果を調べるため、令和3年11月に社会実験を行い、市駅北側の「千舟町通り」が混雑する結果となりました。

これに伴い、令和4年4月に花園町交差点から千舟町5丁目交差点まで約250メートル区間を整備し、車線変更しました。

整備計画の公表

社会実験期間中に行った交通実態調査やアンケート結果などを分析・評価し、ワークショップなどで利用者の意見を聞きながら、整備計画をとりまとめた資料が松山市ホームページに掲載されています。

松山市駅前広場整備計画ー「歩いて暮らせるまちづくり」のシンボル広場ー

『出典・引用：松山市ホームページ』

松山市では城山公園から花園町通りを通して松山市駅へ、そして、銀天街、大街道、ロープウェー街、にきたつの道を経由して、道後温泉に向かうまでの全長約4キロメートルで、賑わいの空間や歩行者のネットワークづくりを進めています。松山市駅は、このネットワーク形成に重要な拠点です。

この度、穴吹不動産流通株式会社松山店は、

住所：松山市千舟町4丁目1番地5メイフェア千舟町プレミアム1階

へ事務所移転を行いました。

松山市駅から徒歩約7分に位置します。不動産のご相談があれば、お気軽にお立ち寄りくださいませ。